



### 南スペインへ



一人の司教も、住まなかった  
アストルガの司教館

ヨーロッパに行くには飛行機で約十二時間。座席の狭いエコノミークラスなら、体力的には七十歳までと、勝手に妻と決めて、少し座席の広いビジネスにしたらと思うが、ビジネスクラスの航空運賃だけで、エコノミー使用の団体ツアー料金の約二倍。それならもう一回旅行した方がよいということになる。貧乏人の発想である。

これで海外旅行が盛んなのは、エコノミー使用の団体ツアーは、国内旅行に比べても割安感があるからだろう。

とにかく、六十七歳の私にはあまり時間的余裕がない。そんなわけ

で、昨春の北スペインに続いて昨年末、南スペイン・ポルトガルを旅したのである。

今回は特別な巡礼団ではなく、一般観光旅行に混じっての旅。「ガウディの聖家族教会を見る」「セビリアにいる日本人シスターに会う」。この二つの条件にかなうツアーを新聞広告の中から探した。

「情熱のスペインと悠久のポルトガル十日間」がそれである。

地図の上の線が昨春の旅、下の線が今回の旅で、リベリア半島の南を横断した。

安い旅行代金はそれなりの理由がある。十二月中旬の旅は、スペインも冬、航空運賃、ホテルがシーズン・オフなので安くなるから旅行代金も安い。

前泊の必要がない福岡発着だからと申し込んだのだが、スケジュールが届いたら、福岡から早朝の飛行機で成田に行かなくてはならない。それには福岡に前泊しておかねば間に合わない。帰国の際も福岡着が遅く、最終新

幹線に間に合わないの

で、また一泊。結構、割高になる。

また安いので参加者が多く、当日集合する

と何と七十九人。現地ではバス二台、二つの班に分かれての旅となった。

一番困ったのは行く先々で女性のトイレに長い行列ができること。しかし、そのお陰で買い物好きな妻が買いたくなる時間が少なくなつたという良い面もあつた。

安い料金の旅だからこそ体験できたと考えれば腹も立たない。人生と同じように、不満よりも、賛美と感謝が肝心である。

（バルセロナ）

首都マドリッドに次ぐスペイン第二の都市、バルセロナの人口は約百七十万。十五年前の一九九二年のオリンピック開催地である。

女子二百メートル平泳ぎで、岩崎恭子が金メダルを取った。インタビュで「今まで生きて来た中で、一番うれしい。年齢を聞いてびっくりの十四歳。その何

倍も生きているのに、自分にはどんなうれしさがあるかと思つたことを思い出す。

オリンピックとともに、バルセロナを世界中に発信したのは建築家、ガウディではないだろうか。彼の建築物はバルセロナに集中している。それは次回以降とし、今回はアストルガの司教館について。

写真のようにおとぎ話のお城のようで、あまりに斬新だったの

で、依頼主の司教以外は異論が多く、ガウディに対し「済ミマセン」と司教。この司教が亡くなったあとと完成した建物にはだれも「住ミマセン」。今は巡礼博物館として使用されている。

天才は時に受け入れられないことがある。次回は万人に受け入れられている未完の傑作、聖家族教会である。

（元山口放送取締役ラジオ局長）



スペイン、ポルトガル横断の  
前回と今回のコース